

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An introduction to curriculum		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
(主) 松崎勇人、保坂里絵		本館2階	講師の講義のない時間	授業中に指示します
授業の概要				
教育の目的と教育課程の関係を理解する。教育課程の類型を理解し、その編成方法と評価を理解する。我が国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷について理解し、外国の教育課程改革の動向を理解する。カリキュラム経営について理解する。				
授業の目標				
①教育課程の類型や編成方法や評価方法について述べることができるようにする。 ②日本の教育課程の編成過程や歴史や諸外国の教育課程改革の動向について述べることができるようにする。 ③カリキュラム経営について具体的に述べることができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使つての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育課程の類型や編成方法等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2) カリキュラムの歴史や意義について述べることができる。 (3) 発達に応じて教育計画を構想し評価し反省することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(松崎・保坂)			
第2回目	教育課程とは何か(松崎)			
第3回目	教育課程の類型と構造(松崎)			
第4回目	教育課程の類型と構造(松崎)			
第5回目	学習指導要領と教育課程(松崎)			
第6回目	戦後日本の教育課程の変遷(松崎)			

第7回目	戦後日本の教育課程の変遷（松崎）	
第8回目	諸外国の教育課程改革の動向（松崎）	
第9回目	教育課程の経営（保坂）	
第10回目	教育課程の編成（保坂）	
第11回目	教育課程の評価（保坂）	
第12回目	発達に応じた教育課程（保坂）	
第13回目	教育計画の実践例（保坂）	
第14回目	教育計画の実践例（保坂）	
第15回目	教育課程の今日的課題（保坂）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	80%	2つのレポートを（40点満点のものを2つ）提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(保育士養成課程必修・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
保坂里絵	授業中に指示します	火・水・金（授業時間は除く）		授業中に指示します
授業の概要				
保育の基本と計画、保育における計画の変遷、教育課程、教育課程の編成、教育課程・保育課程・指導計画の実施と指導、保育における評価などについて講義し、「生きる力」を育むカリキュラムを考える。				
授業の目標				
①教育課程、保育課程、指導計画の定義、編成、作成の手段を習得することができるようにする。 ②幼児期の発達にふさわしい保育実践の特質を説明することができるようにする。				
授業の方法				
基本的には、講義形式で行う。「調べる、考える学習」を重視した授業の展開を図り、レポートの提出を求める。单元ごとに小テストを行う。グループディスカッションを導入し、グループごとに発表を求める。				
学習の成果（学習成果）				
①教育課程、保育課程、指導計画の意義並びに編成・作成手順などを踏まえ、日々の保育実践に活用することができる。 ②保育実践の評価の意義、評価の方法を正しくとらえ、子どもの健やかな発達にふさわしい保育実践を踏まえ、これからの保育の充実につなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と進め方について 受講に関する注意点について			
第2回目	幼児教育の基本と教育課程・保育課程			
第3回目	保育内容の変遷と教育課程			
第4回目	保育内容と領域			
第5回目	発達の理解と教育課程の編成			
第6回目	特色ある幼稚園づくりと教育課程の変遷			

第7回目	教育課程の評価・改善	
第8回目	幼稚園における教育課程編成の実際	
第9回目	保育所における保育課程の実際	
第10回目	「環境を通しての教育」を支える教育課程・保育課程	
第11回目	教育課程と保育課程 指導計画と指導計画作成の留意点	
第12回目	指導計画作成の実際 短期の指導計画の役割 週案・日案の内容 幼児理解の方法	
第13回目	具体的なねらい、内容のとらえ方 環境構成と活動との関連 週案日案の立て方	
第14回目	保育における評価の意義 試験	
第15回目	多様な保育の計画と保育評価	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	出席や受講する態度、ノートのまとめ方・授業で使われる教材準備など積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	課題に対し詳細に探究し、内容構成がしっかりされ課題の条件が満たされている。（詳細については、ガイダンス及びその都度授業の中で説明する。）
調査報告書		
小テスト	20%	単元終了時に小テストを行う。授業や教科書に書かれていることが十分習得している。（詳細は、ガイダンス及びその都度授業の中で説明する）
試験	50%	授業内での学びを踏まえ、設問に対し保育の場に応じた適切な表現で述べられている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 教育課程総論 北大路書房 参考資料 保育原理 ミネルヴァ書房 保育課程論 北大路書房 「保育所保育指針解説書」厚生省 「幼稚園教育要領解説」文部科学省		
履修上の留意点・ルール		
目的意識をもって意欲的に授業に臨み、私語を慎むこと。季節や気温の状況以外は、飲食物の持ち込みを禁止する。		